

「すべての原発を廃炉にしよう！」シリーズ9

安全対策先送り…大飯原発再稼働？ 暴走する野田政権を許すな！

野田首相は13日の参院予算委員会で「国論が二分するなか責任を持って判断した」「国民の生活を守るため」と答弁し、安全対策を先送りした大飯原発再稼働へと暴走している。

そもそも国民世論の82%が「原発廃炉」を求めている。野田はこうした圧倒的多数の国民の声を無視し、「財界・電力会社・官僚・御用学者…」など原発マフィアの利益と利害を守るためにのみ動いている。また民主党政調会長代行の仙石由人は「ストレステスト（耐性検査）が済めば、その他の原発も粛々と動かすべきだ」と四国電力伊方原発3号機（愛媛県伊方町）など各地の原発再稼働を急ぐべきと産経新聞のインタビューに答えている。

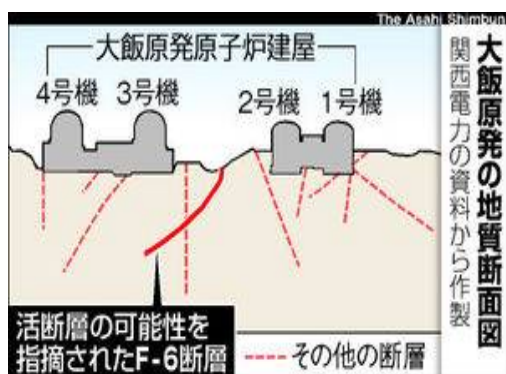
彼らは大飯原発再稼働を皮切りに、全国の原発再稼働を強行しようとしている。

安全対策は先送り

①作業員を守る免震施設の整備は数年先。②ベント（排気）フィルターの設置はまだ検討段階。③熱を逃がす海水ポンプを守る防長堤は数年先。④対策拠点（オフサイトセンター）の見直しは手つかず。⑤30キロ圏内までのモニタリングポスト設置は手つかず。⑥30キロ圏内でのヨウ素剤の配備・備蓄不十分。そしてあの原子力安全委員会委員長の班目春樹氏でさえ「ストレステストは一次評価だけでは不十分だ」と指摘していることも無視。

大飯原発の地下には活断層

「大飯原発の敷地の地下を南北に分断するF6断層という破砕帯がある」と指摘されている。しかし関電は「2010年に活断層ではないと保安院が言っている」と開き直り調査すらしようとしていない。もしこの活断層が動けば、大飯原発の地表がずれて配管が引きちぎられ、建物が倒壊する可能性が出てくる。それはチェルノブイリ事故のように、福島第一原発事故をはるかにうわまわる放射性物質をまき散らすことになる。しかも大飯原発3・4号機は濃度の高いプルトニウムを含んだMOX燃料が使用される。まさに関西圏は人も住めない汚染地域となり、日本列島は東西で崩壊する。



今こそ「原発反対」の声を上げよう！普通の生活を守るために…